

週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月12日(木)

《信じる者は永遠の命を得ている - 信じる者となるために、み旨に適う行いを - 》

今日の福音(ヨハネ 6・44 - 51)は、あらゆる福音をまとめた内容になっています。そのことについて、簡単に説明させていただきます。

今日の福音でイエス様は、「わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。」とおっしゃいました。これは、「今まで皆様が信仰生活を続けて来られたのは、ご自分の力によるのではないことを意識しなさい」ということだと思います。今までにも、何度も繰り返し話して来ましたが、今日のこのミサも私たちが自分で足を運んで来たわけはありません。今日の福音の言葉を借りれば、「御父が、神様が、引き寄せてくださったから」皆様はこのように平日のミサに与っているのです。

その後イエス様は、「信じる者は永遠の命を得ている。」とおっしゃっていますね。『信じる』とは、どういうことを言うのでしょうか。私たちにとって、どういうことが信じることになるのでしょうか。「信じています。」と言え、永遠の命が保証されるのでしょうか。使徒パウロは、手紙に「行いが無い信仰というものは、死んだ信仰である。」と書き残しています。つまり、「水で洗う」という形だけの洗礼を受けたからといって、永遠の命を保証するわけではないことをはっきりおっしゃっているのです。では、私たちはどうでしょうか。「信じる者ならば、永遠の命を得られる」と言われています。ただし、確実に永遠の命を得るためには、何よりも御父のみ旨に適う振る舞いが必要です。そして、その振る舞いは、御心に似ている心で、行わなければならないでしょう。

私たちが信者になって、それ以前と変わったことは何でしょうか。もし皆様が信者になっていなければ、今とどんな違いがあると思いますか。「あまり変わらないだろう」と思ったのならば、反省すべきことがあると思います。

皆様、「信じる者は永遠の命を得ている。」という言葉は何回も何回も繰り返し、黙想なさってください。「私にとって、信じるとはどういうことなのか?」、「本当に信じているのか?」、「何を信じているのか、いいえ、何を信じたいのか?」、「ただ自分に利益になることばかり考えて信じているのではないか?」、「イエス様の使命、召命にどのくらい応じながら今の信仰生活をしているのか?」振り返ってみる必要があると思います。

とにかく、『信じる者』と言われる人々は、顔が輝きます。そして、誰かがその人に接すれば温かさを感じられるでしょう。その人の中に美しさを感じられるでしょう。

私たちも、他の人たちから「あなたに会ってよかった」という反応が出るように頑張らなければならないでしょう。信じること、そこには必ず責任がついて来ます。その責任は、具体的な行い、実践であることを意識しましょう。

ありがとうございました。